

審 議 経 過

■事務局から議事「第3期伊万里市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定（案）について」説明

【主な意見】

（委員A）戦略案に記載している取組は、これらを実施するという前提なのか。

（回答：事務局）あくまで現在の課題への対策として可能性があるものや希望も含めて記載しており、予算の裏付けはない。

（委員B）この戦略で、伊万里ならではの特徴ある取組、これをやるんだという具体的な取組はあるのか。

（回答：事務局）本市ならではの具体的な取組については、個別にみれば特別な取組はほとんどない。ただし、重点ポイントとして、子育て・若者成長応援パッケージの推進としていることから、戦略に掲げる取組全体をみたときには、子育て世代や若者を応援するという姿勢が特徴的なものとなっている。

（委員C）岡山県奈義町では、地方創生関連の企業から地方への人材派遣制度を活用され、子育て応援宣言都市として、人口を減らさない取組を積極的に展開されている。伊万里でも、目的やターゲットを明確にして、こういった自治体を参考にしてみたい。

（回答：事務局）具体的な成功事例をご教示いただいたので、ご意見を戦略にどういった形で盛り込めるか検討する。

（委員D）2060年の将来人口を4万人とされているが、もっと高い数値を設定すべきではないか。市民が不安になると考える。

（回答：事務局）国勢調査などの数値をもとに、社会増減や自然増減を本市に有利な数値に設定した場合で、2060年の推計値は38,376人となる。日本の人口が絶対的に減っていくという中で、なんとか4万人を維持するとしている。

（委員D）伊万里は昼間人口が人口に比べて2千人多いという可能性を秘めている。

市外から通勤している人に伊万里に住んでもらえば4万といわず、もっと見込めるのではないと考える。

(委員E)

例えば、県立大学の誘致など、1学年5百人の計2千人の大学であれば、学生の数で人口は一気に増え、卒業後の就職を受け皿となる市内企業へつなげることができれば、その人達が伊万里で子どもを産み育てることで、伊万里の人口は維持、もしくは増加するという良い循環に繋がるビジョンを持ってはどうか。

(回答：事務局)

これまで市が作る計画では高い目標を設定していたが、ある程度現実的な数値を設定している。ただし、この数値についても企業誘致や子育て支援など、様々な取組が十分に成果をもたらした場合のものである。また、将来人口を4万としたからといって、市としての活動を止めるとかそういったことはなく、仮に人口が上向きになるようであれば、当然将来人口について補正していくことになるので、ご理解いただきたい。

(委員F)

将来人口は4万人、個人的にはこれでも厳しく、実際は3万8千人ぐらいかなと思う。人口の減少を人数だけで表すと見えてこない部分もあるので、併せて、伊万里だけでなく、日本や佐賀県と比較した減少のパーセンテージなどを記載できればと考える。また、農業DXにより、伊万里にきて農業をして幸せになる、高齢になっても農業を続けられるという幸せを感じてもらう取組も必要と考える。できれば予算感や注力する具合なども見えた方がよい。

(回答：事務局)

見せ方についてのご意見ですが、こういった形で反映できるか検討する。

(委員G)

伊万里高校への保護者の送迎が1日100台くらい感覚ではあると思う。学生の通学の足という視点から、公共交通機関が十分でないところについても、その対策について触れてほしいところである。

(回答：事務局)

ご指摘の公共交通の充実の部分ははっきりとは記載できていない。デジタルの視点からどのように反映できるか検討する。

(会長)

議事 第3期伊万里市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について承認いただける方は拍手をお願いします。

～拍手多数～

承認されたものとする。事務局へは、本日の意見を踏まえて、パブリックコメントや本部会議に繋げてもらうようにお願いします。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。